様式 5-1:終了時活動報告書

2026 年 4 月 27 日

世界の人びとのためのＪＩＣＡ基金活用事業
終了時活動報告書（2024 年度採択案件）

１．業務の概要	
（１）案件名	移民ルーツの若者をエンパワメントするプロジェクトポンテのメンター拡充事業
（２）実施団体名	特定非営利活動法人 immi lab
（３）実施期間	2025 年 3 月 7 日～2025 年 12 月 15 日
（４）実施国	日本
（５）活動地域	滋賀県、京都府など関西全域

（６）活動概要

①活動の背景：

・ 日本には約 280 万人の海外ルーツの人々が暮らしており、うち 20 万人が日系ブラジル人移民をルーツとする人々である。

・ 海外ルーツの高校生以下の人口は推定 50 万人であるが、高校進学率は 40-60%と全国平均（令和 5 年度 98.7%）と比較して極めて低い。一方、高校中退率や高校卒業後の非正規就職率は高い。この状況の背景には、親世代が日本語を話せないため、進学・就職の仕組みに関する理解が充分でなく、必要な情報を適時・適切に得られないという課題がある。結果として、多くの海外ルーツの若者が、日本の社会システムに対応できず、孤立していると感じている。

・ 実施団体が 2022 年から実施している「プロジェクトポンテ」では、滋賀県在住の日系移民ルーツの若者のレジリエンスを高めるために、ボランティアメンターによる１対１の伴走、アイデンティティの尊重などをテーマにしたカリキュラム等、さまざまなプログラムを提供するとともに、進学進路支援を行っている（本活動開始前の 2024 年 4 月時点で累計 30 組の若者とメンターのペアが活動を実施）。

・ 移民ルーツの若者のメンターニーズは高く、メンターの人数及び質を担保しつつ、ペア数を拡大していく必要がある。そのためには、メンターをサポートしていく体制を強化する必要があることから、本事業に取り組んだ。

②活動の目標：

・ 事業目的は、移民ルーツの若者を対象とした伴走型レジリエンス育成事業「プロジェクトポン

テ」の拡大のために、ボランティアとして参画するメンターの人数を増やすとともに、彼らが持続的に活動するために必要な事項を整理し、メンター向けの研修プログラムを開発、実践していくこととしている。そのため、①プロジェクトポンテコミュニティを実感できる対面イベントの開催、②メンター候補を対象とした研修プログラムの開発と実施、③メンティ（移民ルーツを持つ高校生相当の若者）の「成長計画（メンティがどのような大人になりたいか、どのような進路に進みたいか等を具体化したもの）」の作成に対する支援、の3つを重視して活動を行った。

２．業務実施結果

実施した内容

1　プロジェクトポンテコミュニティを実感できる対面イベントの開催

2025 年 8 月 23 日、近江八幡市にてスピーチコンテストを実施し、50 名（うち、メンター7 名/メンティ 15 名/一般 28 名）が参加した。

移民ルーツを持つ若者の中には、日本に住みながらも日本社会との関係が希薄で社会を知る機会が少なく、進学や就職における進路の選択肢を狭めてしまっているケースがある。また、学校でいじめを受けた経験等をきっかけにアイデンティティに自信を持てず、自己表現ができずにストレスを抱えるケースや、社会に上手く溶け込めないケースも多く存在している。このような背景から、当団体では移民ルーツを持つ若者が社会において上記のような困難に対し、しなやかに対応・適応する力（＝レジリエンス）を身に付けるため、「人と繋がる」「日本社会を知る」「自身のルーツに向き合う」「自分を表現する」機会が必要であると考えている。

本スピーチコンテストは、準備と実践を通してメンティたちにこれらの機会を提供し自身のアイデンティティを前向きにとらえ、日本社会に適応する力を育むことを目的とした。準備プロセスにおいて、参加したメンティはメンターなどのコミュニティ外の人たちとの交流を通して日本社会に触れ、スタッフとの面談を通して悩みを相談し、また移住ミュージアム（神戸市）訪問等で自身のルーツと向き合った。これらの経験を踏まえ、自らのルーツや過去の経験、今後の目標等をテーマにスピーチを行った。

スピーチコンテスト後には、メンター候補者へコンテストの様子を撮影した動画を共有した。この結果、メンティたちが抱える悩みや自身のルーツ、いじめを受けた経験などについて深く考え、そこからどのように変わろうとしているかがメンター候補者に伝わり、メンター活動を始める意欲の向上に繋げることができた。また、多数のボランティアも参加したことで、メンター以外の関わり方からメンターになったり、逆にメンターではない関わり方を模索するボランティアが出てきたりと、ボランティア同士の情報交換ができたことも良かった点としてあげられる。

2　メンター候補を対象とした研修プログラムの開発と実施

事前に行った伴走支援者とのコンサルテーションにおいて「メンターの量だけではなく、質の確保も重視する必要がある」とのアドバイスを受けた。

これを受け、2024 年度末に活動中のメンター20 名に対してアンケートを実施し、メンターとしての必要な資質・課題等の分析を行った。このアンケートの結果、各メンターが持つ知見や若い世代との関わり方の傾向等に個人差があることが分かった。その結果をもとに、本事業にてメンターを様々な面からサポートする体制を構築できるよう以下のメンター向け研修やツールの整備を新たに企画・実施した。

■本事業期間中に実施したメンター向け研修・説明会等

・　メンターオリエンテーション

メンターとしての活動を開始する前にメンターが集う、合同オンラインオリエンテーション。メンター制度の基本的説明や知識・ノウハウの共有を行った。

第 1 回：2025 年 4 月 24 日（オンライン/ロールプレイを含む 3-4 時間/10 名参加）

第 2 回：2025 年 10 月 29 日（オンライン/ロールプレイを含む 1-2 時間/7 名参加）

・　進捗モニタリングフォームの作成

メンターの活動状況（進捗と課題）を把握するため、モニタリングフォームを作成し、メンターから月に 1 回提出してもらう仕組みを導入した。

・　メンター専用 Web ページの整備

2024 年度末に実施したメンター向けアンケートでも課題として挙がった、メンターとのコミュニケーション向上を目的として、これまで活用していた WhatsApp グループに加えてメンター専用の Web ページを開設した。

この Web ページにて immi lab の活動スケジュールや、移民ルーツの若者が直面してきた課題が分かる内容を発信している。

・　メンター交流会の実施

メンターとスタッフのみが参加する交流会。普段の活動で感じている不安や喜びを共有し、学びあうことを目的として対面で開催した。

第 1 回：2025 年 11 月 16 日（滋賀県大津市/メンター7 名、スタッフ 6 名）

・　メンター向け説明会

新規参加者を対象とした説明会。本説明会を録画し、今後新たにメンター候補に動画を見てもらえるよう、アーカイブ資料として活用することとした。参加者の関心が多様であったことから、一人ずつ丁寧なヒアリングが必要であると判明した。

第１回：2025 年 10 月 10 日（オンライン/4 名参加）

・　公開ウェビナー

一般も含めた当団体の活動に興味のある方全般を対象としたウェビナー。伴走コンサルティングでのアドバイスを受け、immi lab の活動全般を知ってもらうことを目的とした。結果、ウェビナー参加者から来年度メンターの申し込みもあった。

第１回：2025 年 12 月 4 日（オンライン/24 名参加）

・　Passion Show

メンティとメンターのペアが登壇し、スタッフのファシリテーションのもと経験や活動の好事例を他のメンターに向けて話すイベント。一般公開は行わずオンライン会議ツールを用いて関係者のみを対象として実施した。

第１回：2025 年 10 月 29 日（オンライン/10 名参加）

第２回：2025 年 12 月 12 日（オンライン/8 名参加）

その他の改善点として、マッチング前に、メンターから詳細情報を記載したフォームや動画を、メンティからはメンターに求める要素をそれぞれ提出してもらうことで、メンターが持つ特性（人間性・資質・能力など）とメンティの希望を的確に把握するよう努めた。これにより各々の特性とニーズに基づいたペアマッチングが可能となった。

これらの取り組みによって最終的に 2025 年中に 15 組 30 名のペアが新たに成立し、累計 50 組（2025 年 12 月現在）の活動ペア成立を達成した。

3　メンティ（移民ルーツを持つ高校生相当の若者）の「成長計画」作成に対する支援

2025 年度は、プロジェクトポンテに参加するすべてのメンティとスタッフとの間で、2 ヶ月に 1 回ほどの頻度で面談を実施した。

以前は「成長計画」を作る際、対面でのグループ面談を実施していた。しかし、数人のメンティを一人のスタッフが見る形式としていたため、本音を聞き出すことが難しいという課題があった。その課題を解決するために、対面もしくはオンラインで１対１の面談形式で実施するように変更した。また、「成長計画」を制作すべきタイミングが個人によって異なるため、比較的短い間隔で面談を実施することでメンティそれぞれのニーズに柔軟に応えられるようにした。

また、7 月 26 日にはメンティに対して自身のルーツについて深掘りする機会やコミュニティ外の人々（主にメンターやメンター候補者など）と交流する機会の提供を目的として、移住ミュージアム（神戸市）訪問とその振り返り、自身のルーツと将来について考えるグループワークを実施した。

（２）実施成果：

1　プロジェクトポンテコミュニティを実感できる対面イベントの開催

スピーチコンテストでは、社会における自分に対する認知の変化や自己肯定感の向上、人生設計の展望が見え始める、日本文化へ関心を持つなど、メンティ自身の「認知の変化」が認められた。

メンティたちはプロジェクトポンテの活動および本スピーチコンテストへの参加を通して、スタッフやメンターによるサポートを受けつつ日本社会に触れ、自身のルーツに対してしっかりと向き合い、観客の前で自身の考えを発信する機会を得ることができた。参加したメンティの多くは観客から良い反応を得たこともあり、自身のアイデンティティを前向きに捉えるきっかけとなったと考えている。

また、メンターやスタッフとの準備を通して具体的な日本社会との接点や進路イメージを持つことができ、メンティの「成長計画」の具体化にも繋がった。結果として、受験に挑戦するメンティが出るなど、日本社会に適応しようとする姿勢が見られたことが本イベント開催の最大の成果であったと考える。

2　メンター候補を対象とした研修プログラムの開発と実施

メンター候補者向けアンケート（2024 年度末実施）を通して、他のメンターとの交流頻度や、自身とメンティとの悩みをどこまで相談して良いか等、メンターが求めるニーズや悩みに大きなばらつきがあることを把握した。

本事業においては、メンターとのコミュニケーションの頻度と伴走の質を高めることを第一目標とし、進捗モニタリングフォームを用いた状況把握を開始した。結果、メンターの悩みや意向を汲み取りやすくなり、マッチングの精度と満足度を高めることができるようになった。また、伴走の質の面においては、メンティが感じていることが必ずしも適切にメンターに伝わっていない、受け取れていないケースもあることが分かった。この課題解決を支援するために「Passion Show」は非常に有効であった。メンターにとって他のペアの関係や経験、好事例を知る機会となり自分たちのコミュニケーション方法を見直す際の参考になったというフィードバックがあった。

これらの取組みを通して、メンターとスタッフ両方でメンティを支える形が整備できたため、今後の伴走の質が上がることに期待できる。

メンター数の面では、ウェビナーや説明会などを通してメンター数を増やすことができ、結果的に 2025 年 12 月には累計 50 組を達成することができた。しかし、相性の関係からすぐにマッチングできないことも多いため、マッチングできなくとも活動を始められるような講座や単発ボランティアを増やす実験をしてきたが、管理に大変な労力がかかった。

現在は、マッチングまでの労力軽減を目的に、メンター対応専門のスタッフを設けることで、各

メンターの課題や要望にスムーズに対応することを目指す体制としている。

3　メンティ（移民ルーツを持つ高校生相当の若者）の「成長計画」作成に対する支援

面談の形式をグループ形式から１対１に変更したことにより、メンティは抱える悩みや希望する活動を具体的にスタッフに伝えることができるようになった。これによりスタッフ側でもインターンの紹介等、個々のメンティに沿った新たな体験を準備しやすくなった。

対面イベントとして実施した「移住ミュージアム」への訪問は、日本における移民の歴史を知り自身のルーツに向き合う機会となった。また、プロジェクトポンテの活動全体を通して、メンター等コミュニティ外の人々との交流を行ったことで、日本社会に対する印象にも良い変化があり、日本国内での進学や就職に取り組むきっかけとなったと考えている。

これらの取組みを行ったことで、メンターとスタッフの両方でメンティ個人に寄り添い、伴走していくための基盤を作ることができたと考えている。また、メンティから本音を引き出しやすくなったことで、彼ら個人の経験と意向を反映した「成長計画」の作成に繋がった。

4　その他

説明会等の実施を通してメンター以外のボランティアも募集し活動に参加し始めたことで、プロボノやスタッフが増え、事業と組織全体にとってよい影響が生まれた。今後も、若者伴走に支障がでない限り多様な関わりを設計し、ボランティア全体の数を増やしていく。

（３）得られた教訓など：

- 活動に興味を持ってくださるきっかけや理由が様々であるため、間口を広げた形で広報をすることが重要であり、その先に、メンターだけでなく多様な関わり方をメニュー化し準備することが事業全体を良くすることに繋がると気づいた。
- 元々は、「メンター」という関わり方が伴走者の候補となる方にとってわかりやすいと考えていたが、メンター候補の方々にも強み・弱みがあり、活動しながら自分にあった関わり方を模索するプロセスが必要だと気づいた。
- メンターの数を増やすためには、そのケアができるスタッフも増やす必要があるが、求人に苦戦している。実際、ボランティアからスタッフになる人も多いことから、団体として発信するときは、ボランティアやスタッフ募集などの目的だけでなく、市民に広く活動を知ってもらうための発信を増やしていく必要があると感じた。

（4）今後の活動・フォローアップの方針：

- 今回開発したボランティア向けの研修内容をさらにレベルアップしたいと考えている。
  2026 年中に、事業内容に興味のある方全般を対象とした研修内容を作成、実施していきたい。
- 今回実施したメンターサポートの様々な取り組みは全て継続する予定である。
- メンター以外の関わり方も検討し、多様な関わり方のメニューを準備していきたい。
- 情報発信は、団体全体としての課題であることを認識したと同時に、リスク管理の面から弁護士などの専門家を巻き込む必要があると認識したため、それに向けて動いている。
- 広く活動を知ってもらうために、オンライン広報や映像を活用し広報を行う予定である。

３．その他（エピソード・感想・写真など）

（1）活動中のエピソード・感想など

- メンターボランティアの方々とコミュニケーションが増える中、「この活動をしていて本当に良かった」「私が担当している〇〇ちゃんが、将来について色々考えているが、どう声をかけたら良いか？」など、ボランティアの皆さんもスタッフ同様、若者たちのことを真剣に一緒に考えてくださっていることを感じた。このような思いをコミュニティとして更に共有していくことは、今の移民ヘイトが起きやすい社会の中でも大きな希望になると感じ、この活動の価値をより強く感じた。
- スタッフがメンティから聞き取りをすると「メンターさんとこんな話をできたのがとても嬉しかった」などと伝えてくれることも多く、スタッフやボランティアの方々と良好な関係性が構築できていることが、彼らにとって力になっていると感じている。多様なボランティアが支援に関わっており、味方がたくさんいるということを移民ルーツの若者に伝えられる方法を今後も模索したい。
- スピーチコンテストにはメンティだけでなくその保護者も参加した。保護者に感想を聞くと「たくさんの人に励まされている姿に感動した」という言葉があった。若者に味方がいることを伝えることは、メンティ自身だけではなく、その周りの家族にもポジティブな影響があることを実感した。実際、メンティたちが妹弟をプロジェクトポンテに連れてくることも多く、「大きくなったらポンテに入りたい」と伝えてくれる子どももいる。「こどもと大人」の狭間の存在である移民ルーツの若者を主な対象とすることで、コミュニティ全体にアプローチできていると感じた。

（２）活動の写真

8 月 23 日に実施したスピーチコンテストでは、メンティたちの勇気あるスピーチに多くの参加者が感動した。

11 月 16 日に実施したメンター交流会では、ボランティア同士で普段のペア活動の不安や喜びをカジュアルに共有することができた。

5 月 17 日に実施した「プロジェクトポンテ 2025」初めてのイベントの様子。20 名の移民ルーツの若者にとって、メンターたちとの初めての顔合わせの場となった。

7 月 26 日には「移民のルーツを深掘る」ため、プロジェクトポンテに参加する多くのメンティの先祖である「日系ブラジル人」の歴史を学ぶため神戸の移住ミュージアムを訪問した。

JICA 関西にて移住ミュージアム訪問後の振り返りワークショップを実施した。同行した一部のメンターからは、若者と一緒に日系人の歴史を学ぶことの価値を感じたとの声が聞かれた。

12 月 4 日にメンターなどのボランティアを増やす目的の一つとしてウェビナーを実施。申込者 48 名で参加者は 25 名、その中から新たに 2 名からメンターの応募があった。

（３）JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

メンターの中には JICA 海外協力隊経験者も多く、今後もこの繋がりを生かしていきたいと考えている。伴走支援を通じて、他の NPO のボランティアマネジメントの方法を学べたこともチームにとって大きなモチベーションとなった。対象者向けのプログラムと、ボランティアの巻き込みの両輪は大変な挑戦だと自覚していたが、その大変さをさらに身に染みて感じている。また、本事業の実施を通じて、団体スタッフそれぞれの強み・弱みを再度考える機会となった。これからも成長していくために、尽力していきたい。JICA 基金を通じたご支援にお礼申し上げます。